



聞かせてください 神さまと出会った時のこと 〜エマオへの道で〜

第3回 野田正弘神父(豊中教会)

す。『塩狩峠』が私を神さまと出会わさせてくれたように、物語から神様のメッセージをおばあさんに本を読むことができなかった。神様は一番いい時を選んで、祈りを聞き入れてくれるのだと。これは、私の好きな旧約聖書のヨゼフ物語(創世記37章)と似ています。

大阪市内桃谷の出身。体を崩した父に代わり、中学を卒業後すぐに三洋電機の工場で冷蔵庫の溶接部門で働きながら、定時制高校に通う。20歳のころ、自分自身の自己中心的な考え方が原因で職場の人間関係でつらいことがあった。そんな時に、三浦綾子の『塩狩峠』を読みました。自分とは真逆の、自分を犠牲にしているまでも人のために生きた人がいる。そんな主人公のように生きたいと思い、教会に通い、聖書を熱心に読

む主人公を真似て、聖書を読み始めました。しばらくして、信者だった同僚の紹介で三国教会に行きます。入門講座、ミサ、日曜学校の手伝い、レジオとの週の半分は教会に通っていました。聖書を読むうちに、自分だけよければ幸せなのか? みんなに喜んでもらうのが人間の幸せではないか。本当のよろこびとは何かと気づきました。そして、洗礼の恵みを受けました。私は本を読むのが好きで

ージを感じます。ヨハナ・スピリの『ハイジ』には、大切なキリスト教のメッセージが書かれています。たとえば2つの場面。1つは、ハイジが夢遊病になつて街から山に戻った時、目の見えなくなったペーターのおばあさんに祈りの本を讀むと、おばあさんが喜んでくれました。そこでハイジは気づきます。最初に「山に帰りたい」と祈った時に神様がその祈りを聞き入れて、山に帰っていたら、まだ字が読めなかった私は、

おばあさんに本を読むことができなかった。神様は一番いい時を選んで、祈りを聞き入れてくれるのだと。これは、私の好きな旧約聖書のヨゼフ物語(創世記37章)と似ています。もうひとつは、昔教師と喧嘩をし、自分は里のみんなにも、神様に許されたいと思いついておじいさん、ハイジが「放蕩息子」の絵本を読む場面。おじいさんは、その話を初めて聞いたかのようなふりをして聞き、その後、満点の星を見ながら神様に謝る。次の日におじいさんは里に下りると、自分を許さないと思っていた里のみんなはおじいさんを歓迎するので

物語』では、主人公のおせんは、自分を助けるために命を落とした幸太が、亡くなった後こそ、彼がともに生きていく力を自分自身に与えてくれることを感じるのです。その物語を通して、キリストの復活を感じとりました。イエスは死んだが、その後も弟子と一緒にいる。物語の主人公だと思いました。

くなるが、私の中に『塩狩峠』の物語を誰かに伝えることができるし、あの主人公のようになりたいという気持ちもずっとある。そう考えると『塩狩峠』の本は、もう私の手元にはないが、私の中に生きています。これが、弟子たちが感じたことではないか。パウロが「キリストが私のうちに生きておられるのです」という箇所があるが、その感覚こそが、イエスが生きていくことの証言だと思っております。

スタッフ募集

株式会社 ガラシア WINGS
サービス付き高齢者住宅

ドムス ガラシア

「ドムス ガラシア」の看護師、介護職資格のある職員、また併設する「ガラシア園田クリニック」の医師、看護師を募集しております。ご協力をお願い申し上げます。

☎ 06-4960-8020
✉ info@gratia-wings.jp
担当 濱口、Sr 川水

2020年9月、尼崎市園田教会の隣に開業。信徒、修道者、司祭のケアを提供。

「カテキズムの学び」

第41回 典礼と秘跡についての総論(後半)



サクラ ファミリア 4階で行われた3月のクラスのYouTube配信は上のQRコードから視聴できます。

七つの秘跡の総論の後半は、「いつ」と「どこで」、そして「多様性」がポイントでした。

「いつ」では、主日・典礼暦年・聖人の祝日・時課の典礼が説明されています。

主日に、信者は一堂に会して神のこぼれを聞き、聖体祭儀に参加して、主イエスの受難と復活と栄光を記念し、イエス・キリストが、死者のうちから復活されたことによって、生きる希望へと再生させてくださった神に感謝をささげるのです。(1167番)

「教会のおきて」は「主日と定められた日にミサに与る」と定めていますが、日本の教会における主日以外の「定められた日」とは、「1月1日神の母聖マリア」と「12月25日主の降誕」の二つの祭日です。

「どこで」では、教会堂がその場であることが述べられた後、次のような一文があります。

この「神の家」では、建物全体に利用されているデザインやシンボルなどは、教義とも合致し、しかもそこに現存して活動しておられるキリストを全体的に調和が取れた形で現すものでなければなりません。(1181番)

クラスの質疑応答で、「キリストの活動とは、どのような活動なのか」という質問がありました。確かに、聖堂、十字架や祭壇などの祭具、ステンドグラスはキリストが教会に現存していることを表していますが、活動はどこに見られるのでしょうか。この疑問の解決のヒントになる言葉がカテキズムの終盤にあります。

教会生活や秘跡、また宣教活動の中で働いておられるキリストのはかりしれない神秘。(2625番)

時を越えた存在であるキリストは、「おられる」だけでなく常に「活動しておられる」方です。「キリストは、昨日と今日、はじめと終わり、アルファとオメガ、時間も永遠も彼のもの、栄光と支配は彼に世々とこしえに」(復活徹夜祭・ろうそくの祝福の言葉)。

(文 酒井俊弘補佐司教)

「生きる」— 難民移住者

サバイバーズ・ギルト

今、ある難民の女性Lさんに関わっています。日本では9割以上の難民申請者が不認定とされますから、私たちはLさんが難民認定されるよう周到に準備を進めているところです。Lさんは本国人権活動をしていた人なので、辛い経験も時系列に陳述書にまとめ、危険を冒しつつ有効な裏付け証拠を集めるなど積極的な立証に取り組みました。難民調査の日にはいつも新たな文書や証拠を出すので面接は夜までかかりました。



気丈にふるまっていた

Lさんは、しかし次第に士気が下がって憔悴していきようになりました。難民認定を受けるためには過酷な迫害体験を語る

なければなりません。彼女自身や娘が受けた傷や不当に逮捕され行方不明になった身近な人を思い出し、度々フラッシュバックを起こしました。

Lさんは不眠と頭痛に悩まされ、全身に蚯蚓腫れや蕁麻疹の症状が現れ、人に会える状況ではなくなりまし

合ですが、難民は、自

発的に逃げてきたので自責の念がより強いと考えられます。難民を多く受け入れるカナダには「俺はなぜここにいるんだ」という本があり、難民の抱くサバイバーズ・ギルトについて多面的にとらえ、より深く理解する研究が進められているそうです。モチベーションや信頼感の低下、人に懐疑的になるなど、関係資料を読んだ私は身近な難民たちの姿が浮かびあがりました。

Lさんの娘は「なぜ私はまだ生きているの」「帰国して友達とそばで死にたい」と口走るそうです。多角的に難民に関わる人が必要だと切に思っています。

(文 シナピス事務局
ビスカルド篤子)